

□ H0093170、H0099621

灯明

ヒन्दウー寺院や家の入口に吊るし、火をともして礼拝するんだよ。ナタネ油を受け皿に入れ、木綿の灯心を浸して火をつけるんだ。ロウソクのようなものだね。



□ H0276286 - H0276288

布製灯籠

灯籠をつるすのは、暗い本堂を照らすことだけが目的じゃないんだよ。仏像に敬意を払うという意味もあるんだって。

□ 559 560

ゲル

天幕(ゲル)の天窗は、あかりと空気を取り込む役目があるんだ。ここから差し込む光の位置で日時計にもなるよ。現在では太陽光発電パネルが普及して夜でも明るくすることができるんだって。

チワン族の高床式住居の中にあるよ！
□ 00001926

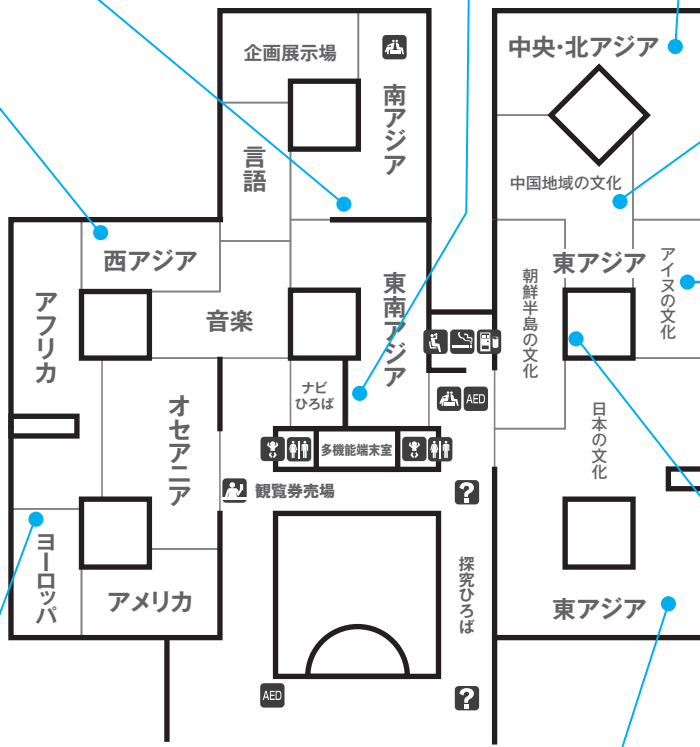
メタンガス用ランプ

高床式住居では、1階に家畜を飼い、人は2階で暮らします。人や家畜の排泄物を肥溜めにためてメタンガスを発生させて、そのガスでランプをつけるんだよ。

□ H0168906

燭台

ユダヤ教を信じる人びとが使うろうそく立て。ろうではなく、オリーブオイルであかりを灯すものもあるんだよ。ユダヤ教の聖典トーラーの教えに従い、7つに枝分かれした形をしていて、お祈りをする時に灯すんだ。



□ H0062383 604

燈明台(チセの中)

海の近くに住むアイヌの人たちは、魚からとれる油をホタテガイの貝殻に入れ、糸や古布をより合わせた芯にしみこませて火をつけ、部屋の明かりにしていたんだ。



つり下げ式オイルランプ

電気を使う前は、石油やガスやろうそくを使っていた。部屋の中央にはランプを天井から吊るして、壁ぎわでは小さいテーブルの上にランプやろうそくをおいて、ひとつの部屋でいくつものあかりを使ったりしていたんだ。部屋のすみずみまで明るく照らす蛍光灯とはだいぶ違うね。いまでも、いくつものあかりを使って、光と影を楽しむ人は、たくさんいるよ。

□ H0001252

秋山郷の民家(内部)

部屋の中央にあるいろりは煮炊きや冬の暖房にも使われ、薪の炎は照明にもなったんだ。中でも「くいず」と呼ばれる大きな薪の火は消さずにおくんだ。昔は、いろりが家族生活の中心だったんだよ。



□ チュムク 酒幕の内部 454 455

照明は油入れて灯しました。その光だけでは暗いので、壁に白い韓紙(ハンジ)をはって部屋を明るくしてるんだよ。



- 屋外休憩所
- 喫煙コーナー
- 休憩所
- 自動販売機
- トイレ
- インフォメーション

H00000 : 展示番号
123 : 電子ガイド番号